

第2話 「PEP 治療院」&「ゴルフスクール GOLF LABO」

第1話で紹介したPEP OSAKAと提携している「PEP 治療院」。
PEP OSAKAから徒歩1分弱の場所にあります。開院して約2カ月ほどですが、一般の方からプロスポーツ選手まで、対象の症状や状態に配慮した治療を行っています。

今回は、治療院を統括する伊藤佐保子氏、それをサポートする今井隆子氏にお話を伺いました。

また、PEP OSAKAと同じ建物にあり、提携施設でもある「ゴルフスクール GOLF LABO（以下ゴルフラボ）」について、森大輔氏にもお話を伺いました。



【PEP OSAKAから徒歩1分弱の場所にある】

「PEP 治療院」

利用者に合わせて有効活用する

PEP 治療院は、PEP OSAKA、ゴルフラボ、Nクリニックと提携をしながら運営をしています。

具体的には、Nクリニックでは「診察・治療・リハビリ」、PEP OSAKAとゴルフラボでは「傷害予防・競技力向上」、PEP 治療院では「リラクゼーション・治療」という大きな分類で提携をしています。

ですから、利用者の方は、自分の症状や状態に合わせて、これらの提携施設を有効活用する形になります。



利用者の割合は、学生アスリートが全体の約50%になります。そして、約40%が一般運動愛好家、最後の約10%がプロスポーツ選手になります。プロ選手に関しては、PEP OSAKAでのトレーニングと併用して治療院も活用しています。

施術内容のコンセプト

施術内容の方針としては、Nクリニックを中心とした他の提携施設と方針を共有したものに基づいています。これが大きな方向性です。

治療院内に関しては、西洋医学的側面から、日本体育協会公認アシテクトトレーナー・健康運動指導士の認定資格（鍼灸師でもあります）を活かして伊藤氏に対応し、東洋医学的側面から、鍼灸師の認定資格を活かして今井氏に対応しています。

また、アロマオイルを活用したフットバスやアロマトリートメント、スポーツ選手に対しては、試合前後のスポーツコンディショニングなども行っています。



最も大切にしていることを伺うと、「利用者のニーズです。もちろん、専門的観点から必要な助言はしますが、その人がどうしたいのかということに十分に目を向けます。

そして、そのために提携施設を最大限に活用しています。」と両氏は話します。

患者との対話から再確認した施設の持ち味

「この治療院の特徴は、癒しの空間だということです。」と両氏は話します。

PEP OSAKAでの傷害予防や、競技力向上を目的とした真剣勝負の場所での緊張感から解き放たれ選手が、治療を受けながら心の内にあるものを打ち明けてくれることが多いのだそうです。



そして、このことをもとに心理的側面からもアプローチができたとき、「同じ建物内でなく、離れた場所に開所したことが、他の提携施設と

【「癒しの空間」でのカウンセリング】

方針を共有しながらも、独特の空間を作り出すことに結びついたのかもしれないと感じました。」と伊藤氏は話します。

有効活用の好例

ある女性利用者を例に、他の提携施設との連携を紹介します。

この方は、足の痺れを抱えており、趣味のゴルフを楽しむことができなくなっていたそうです。

そこでNクリニックを訪れて、症状が改善してくると再びゴルフへの興味が湧き、ゴルフラボを活用するようになりました。

さらに、ゴルフの楽しさを感じたことをきっかけに、身体の健康状態を維持することの大切さを再認識し、PEP治療院も活用するようになったのだそうです。

価値の高いものを提案する

治療に関しては保険適応外です。ですから、「経営的な面では、他の治療院にはないものを提供していく必要があります。

そして、 α を生み出していくことが毎日の課題です。」と伊藤氏は話します。

そのために、わかりやすい説明、自宅でのホームエクササイズといったアフターケアの提案など、さまざまな側面からニーズの具現化に努力をしています。

取材時には、偶然にもジュニアアスリートとその父兄の方が来ていました。その様子を見ていると、その丁寧な対応に、父兄の方は治療内容を十分に理解でき、表情が明るくなっていることが見て取れました。

このような女性スタッフならではの細やかな対応が、学生アスリートの来院率の向上につながっているようです。



快適な生活を送るために

「痛みを抱えた人だけではなく、リラクゼーションやコンディショニングを目的とした人にも来てもらいたいです。」と伊藤氏は話します。

アスリートを例にすると、「明日から練習がハードになるから、PEP治療院でコンディションを整えておこう」、「試合が近くて寝つきが良くないからPEP治療院で話を聞いてもらいながらコンディションを整えよう。あそこに行くと調子が良くなるから…」という使い方をしたいそうです。

「痛みがないから治療院に行く必要がない」ということではなく、「PEP治療院に行くと、より良い快適な生活が送れるから行こう」という側面から貢献したいと話します。

怪我をした時のサポートだけでなく、その人のライフスタイルそのものに寄り添うサポートの姿勢こそ、PEP治療院が支持される理由なのです。

「ゴルフスクール GOLF LABO」

世界レベルのインストラクターによるサポート

次に、ゴルフラボを紹介します。

ゴルフラボは、PEP OSAKAと同じ建物の中にあります。

建物の1階がPEP OSAKA、3階がゴルフラボになります。ゴルフラボの最大の特徴は、TPI認定フィットネスインストラクターによって、個人の身体能力から注目することで現状を認識し、理想のスイングとのギャップを埋めるための個別のエクササイズを提供してもらえることにあります。

TPIとは、ゴルフの本場、アメリカにあるゴルフ研究施設のことを言います。

多くのPGAツアープロが、スイング動作の確認からクラブやシューズの調整に至るまで、ゴルフの全てについて研究し、問題解決しようとする施設です。

そのTPIが養成する指導者認定資格がレベル1からスタートしてレベル3まであります。

レベル3は、日本ではわずか2人のみです。また、森氏は、NATA(全米アスレチックトレーナーズ協会)公認トレーナーでもあります。

ゴルフの技術的な側面だけでなく、身体の構造についても大変に理解の深いインストラクターが「技術と身体」の両面からサポートしているのです。



徹底的に根拠を突き詰めた指導

近年は、映像による視覚化によって自分の動作を客観的に捉えるコーチングが一般化しています。しかし、「ビデオでは表面的な動作の順番などはわかりますが、動作効率までは把握するのは難しいです。」と森氏は話します。

ゴルフラボでは、身体の関節の連動による「動作の伝達率」まで数値データで確認し、より身体の内部まで深く見つめます。



連携があるからこそその環境

ここでも、提携施設との連携を紹介します。

Nクリニックの中里医師は、自らもゴルフをされ、ゴルフラボでのスイングチェックも受けています。

また、日常的に森氏と身体運動に関する意見交換をしている間柄でもあります。

以前に、肩の内視鏡手術をした患者さんがいました。

【映像を有効活用し、わかりやすく伝える森氏】

この方もゴルフを趣味としている方で、ゴルフラボを利用する際に、中里医師が患者さんの様子を見に来られたそうです。

そして、「肩の動きがかなり良くなりましたね。もう大丈夫ですよ。」と声をかけてくださったそうです。

施設間の情報共有ができているからこそ可能となる、患者さん本位の環境をここにも見ることができます。
